

ひ 重機など41台がずらり だのはたらく車展が開催

9月11日（日） 古川中学校

飛騨古川青年会議所は、工事現場車両や重機、緊急車両を展示し、子ども達に乗車体験などをしてもらう「ひだのはたらく車展」を古川中学校グラウンドで開きました。

これは、働く車を見学したり、触れることで、地域への愛着や働く人たちに対して関心をもってもらおうと企画され、今年で3回目。

会場には、パワーショベルなどの重機のほか、大型トラック、警察・消防・自衛隊の車両など41台がずらりと並び、訪れた多くの親子らでにぎわいました。子ども達は、運転席に座ったり、ハンドルを握ったりと、楽しみました。



重機がずらりと並び、にぎわう会場

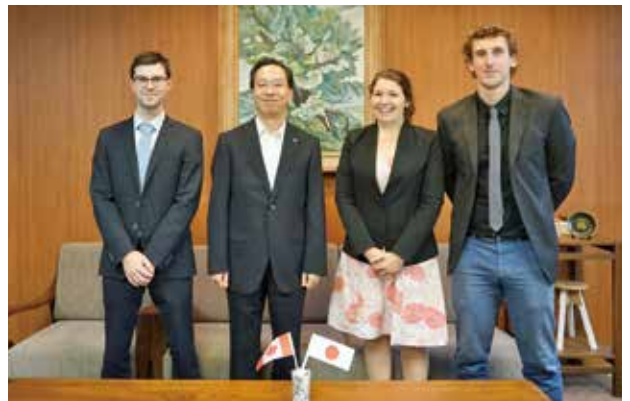
は カナダからのALTが着任報告 じめましてALTです

9月2日（金） 市長室

二学期から市内の小中学校に勤務する3人の新しいALT（外国語指導助手）の先生が、市役所を訪れ、都竹市長に着任のあいさつをしました。

カナダのバンクーバー市から、シノダ・シャノンさんとドレーニー・コルビーさん、そして、カナダのモントリオール市から、カマーフォード・トーマスさんが着任。

市長との懇談では、「子どもたちが世界に興味を持てるようにしたい」、「子どもたちの英語の力をもっと伸ばしたい」など、ALTとしての今後の抱負を語りました。都竹市長は「歴史や文化が素晴らしい飛騨市で楽しんでください」と歓迎しました。



着任の報告に訪れたALT

世 第1回実行委員会が開催 界遺産登録記念事業へ第一歩

9月14日（水） 総合会館

古川祭が全国33件の「山・鉾・屋台行事」の1つとして、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産候補となっています。それを契機にしようと古川祭の関係者による記念事業実行委員会が発足しました。

第1回となった今回は41人が出席し、ちょうちん行列などの決定記念イベントの開催や記念グッズの製作などの事業計画を承認しました。

世界遺産登録は11月28日からエチオピアで開催される政府間委員会で正式に決定される見込みです。



文化遺産登録記念事業に向けて協議する委員

だ 全国から1,539人が参加 いこんマラソン今年も開催

9月11日（日） 神岡町山之村

標高約1,000mの山之村高原を駆ける「第18回山の村だ いこんマラソン大会」が開かれ、ススキの穂が揺れる秋の高原を駆け抜けました。

参加者全員に大会名にちなんだ地元特産のダイコンとホウレンソウが贈られるユニークな大会は今年で18回目を迎え、全国から過去最高となる1,539人のランナーが参加しました。

大会は、天空の牧場山之村を発着点に、3㎞、5㎞、10㎞、ハーフの4コースで競われ、参加者はそれぞれ記録に挑戦したり、家族で風景や自然を満喫しながら走り、さわやかな汗を流していました。



コースを駆け抜ける参加者



ち 思い思いの作品にろうそくをともし いさな村の里山キャンドルナイト開催

9月18日（日） 山之村キャンプ場

キャンドルの美しさ・工夫がしてあるかを競う「ちいさな村の里山キャンドルナイト」が初めて開かれ、山之村小中学校など5チームが参加しました。

参加チームは、与えられた 300 個のろうそくを花など思い思いの形に配置し一斉に灯すと、参加者からは大きな歓声が上がりました。また、山之村の特産品を使ったバザーや地元バンドらによるライブも行われ、会場を盛り上げました。

参加者は「作品はどれもキレイで、会場の雰囲気も良く、素敵な思い出になりました」と話していました。



キャンドルの作品を撮影する参加者

ぼ 地域に夢とにぎわいを んぼりが淡く町を彩る

9月17日（土） 古川町式之町

1,000 灯あまりの「夢ぼんぼり」でライトアップする「ぼんぼりゆめ街道」が古川町式之町通りで開催され、会場となった約 600m の道路は幻想的な雰囲気に包まれました。

このイベントは、式番町ゆめ倶楽部と吉城高校ぼんぼり会が町おこしにつなげようと毎年企画し、今年で 11 回目を迎えます。

会場には、古川祭の各屋台組を象徴する台紋入りのぼんぼりや、町内の保育園児が将来の夢やイラストなどを描いたぼんぼりが並び、来場者を楽しませました。



ぼんぼりが並んだ式之町通り

五 秋の風物詩きつね火まつり 穀豊穰・商売繁盛

9月24日（土） 古川町市街地

民話「キツネの嫁入り」を再現した古川町の秋の夜の風物詩「飛騨古川きつね火まつり」が同町のまつり広場をメイン開場に行われました。

たいまつ（たいまつ）の灯りにきつねたちが浮かび上がる幻想的な雰囲気が市街地一帯を包み込み、県内外から訪れた約25,000人の観客を魅了しました。

夜には、きつねに扮した花婿と花嫁を乗せた花車など約80人の若者が、瀬戸川など市街地を練り歩きました。

メイン会場では、大勢の観客に見守られ「婚礼の儀」や和傘による可憐な「花の舞」、「蛇闘楽」が行われ、おとぎ話の世界が蘇りました。



瀬戸川沿いを練り歩くきつねの嫁入り行列

森 200点の作品と芸術に触れる 羅万象展が多くの来場者でにぎわう

9月17日（土） FabCafe Hida

ひねもすこそだての会は、全国で個展を開催する江崎満さんの版画・陶芸展覧会「森羅万象展」を古川町の FabCafe Hida で開きました。

この企画展は、子育て中の親が集う同会が、子連れの親でも気軽に芸術に触れてもらおうと企画。

展覧会では版画・陶芸作家の江崎満さんの作品約 200 点が展示されました。江崎さんは約 30 年前から石川県輪島で生活し、版画や陶芸などの創作活動を続けており、会場には、鳥や植物、海など輪島の生命をテーマにした躍動感あふれる作品がならび、訪れた来場者は色彩を楽しみながら芸術に触れていました。



来場者に作品の説明を行う江崎さん